



1411 「絵本 ソラマメかぞくのピクニック」3/26 吉備人出版

朝日新聞の天声人語に絵本の紹介がありました。「ソラマメかぞくのピクニック」です。

*ガンで亡くなった子の事を載せています。つらく思う人は読まなくていいです。

前略

主人公は、12年で生涯を閉じた実在の少女が自分の足形から生み出したキャラクターだ。闘病中、緑色の絵の具を足裏に塗り、画用紙にあてて描いた。

作者は昨年亡くなった広島県の森下しょうかさん。5歳の時、左足にガンが見つかった。絵は亡くなる半年前から、病室で描きためた。

「そらまめさん」と兄弟がお弁当を広げたり遊んだりする物語。

中略

入退院を繰り返したが、6年生の運動会では、本番当日に練習して組み体操に出場。2泊3日の修学旅行にも参加した。

中略

中学入学を控えた昨年1月、容体が悪化する。激痛に耐えながら「まだ死にたくない」とベッドの柵を握った。「友だちと出たい」と訴えていた卒業式には、同級生が遺影を持って参加。しょうかさんの名前が呼ばれると、6年生全員が「はい!」と声をそろえてくれた。

絵本が出版されたのは昨年末。ページをめくると、しょうかさんの足形が躍動する。12年間の人生の足跡そのもののような絵本は、涙なしでは読むことができない。



去年9月の山陽新聞に、闘病を支えた看護師たちが寄付を募って出版する企画が載っていました。



★ ガンで亡くなった教え子を思い出します。

ガンの手術を受け、1年後に再発。約2年の闘病生活を経て25歳の人生でした。最初のガンの時は、私の自宅まで報告にきました。同級生の仲間に支えられ「ぼくが、みんなの希望になる」の言葉。彼は生きるために苦しくても最後まで闘い続けました。

けど、弱音を吐いてくれなかったことが心残りです。

← 死を覚悟した最後のキャンプ前に撮った写真

「生きている」ことは当たり前ではありません。また、つらくても亡くなっていく身近な人から、今、自分が生きていることの奇跡を学ぶことも大事です。

今日の日を大切に生きよう。あなたの後ろには、あなたを大事に思う人がいます。

それは、あなたのとりの子も同じです。



1412 「専門用語がカタカナなのはどうか？」3/26

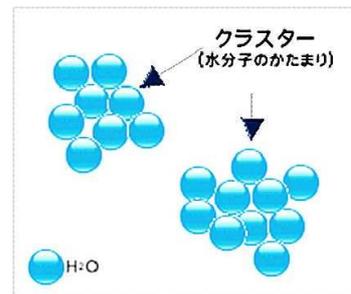
新聞の記事からです。

河野太郎防衛相が、政府が新型コロナウイルス対応で横文字の専門用語を多用しているとして批判している。後略（朝日新聞 3/26）

横文字とは英語のカタカナ表記のことです。ずっと前から英語のカタカナ表記が多いことに、「漢字の方が分かりやすい」と不満があります。

英語のカタカナの方が、かっこよく聞こえる？でも漢字の方がものの姿が分かります。

ニュースで言っているクラスター感染の「クラスター」は、6年前に水の状態変化を調べた時に初めて知りました。一般になじみのない科学用語をニュースでいきなり使っています。



私「クラスターって、英語で言ったら分からないだろ！」

妻「“集団感染”とも出ているよ。」（テロップです。）

私「最初から集団感染と言えればいいじゃないか！」

オーバーシュート、ロックダウンも漢字にすると感染爆発、都市封鎖です。

漢字だと深刻さが分かりすぎる？英語のカタカナなら分かりにくさで不安が弱まる？

さて、次の言葉を日本語（漢字）に直せますか？

クランケ	= 患者 (ドイツ語の英語読み)	フラストレーション	=
ポジティブ	=	インフォメーション	=
リスペクト	=	コーナー	=
ミネラルウォーター	=	ロマンチック	=
チェック	=	コンテスト	=
メリットとデメリット	=	データ	=
リスク	=	サイト	=
ケア	=	クーポン	=
ダイバシティー	=	デジタル	=
モニタリング	=	モチベーション	=

私「体がすらっとしている」がスマートなのに、スマートフォンのスマートの意味は？」

娘「“賢い”じゃない？」

調べると2番目の説明にあります。

クール(cool)を私は「涼しい」と学びましたが、今は「かっこがいい」になっています。

言葉の意味は変わります。新しい言葉は増えます。だから言葉の本当の意味を理解していないと、分かっているつもりで、本当に分かり合えませんね。